



元正問記 六

^ 13
2695
8



2696
6

元正百花巻の十六

目録



一 海達英化と及尾八郎と
由原下宿院と

一 柳河及地列の流らるる事
ツルギと

一 宗家所記 2022/10

宗家所記 2022/10

一 宗家所記 2022/10

宗家所記

一 宗家所記 2022/10



一 宗家所記 2022/10

宗家所記 2022/10

宗家所記 2022/10

一 宗家所記 2022/10

一 宗家所記 2022/10

一 宗家所記 2022/10

一 宗家所記 2022/10

一 宗家所記 2022/10

一 宗家所記 2022/10

一 宗家所記 2022/10

之足飛る一石起ると之様をく是より
はるむと此村越河端も及支死しく
右へはるむと此村越河端も自らの足
に八節書をとるを川赤老中道相成
たより此書は河端も若葉書海り沙り
る湯の所を流るの金買の若者と若
包書の口へ後道へくる刀と其心は
中へくる一節書をたさくせるとる
と云ふは此書は是は身の振舞い
り一物より実初一節書は此書印
也

たより此書は是は身の振舞い
り一物より実初一節書は此書印
也
今調法は及法欠とて下流りる
るどにか八節書を義如く法は
ハ諸の勅御へ進めある付は
中井打果は是より此書物
此書物の中へ
たより此書は是は身の振舞い
り一物より実初一節書は此書印
也
今調法は及法欠とて下流りる
るどにか八節書を義如く法は
ハ諸の勅御へ進めある付は
中井打果は是より此書物
此書物の中へ

わき、院之波をん若一、兼川、
打果に、
乃存多、
大在の、
了隆、
と日、
と、
天、
知、
了、

老、
了、
村、
隆、
る、
入、
招、
と、
甲、
と、

市部しよぶの世方のうらたけのついで水小居みづこゑあり
新見あらみ世によ臨ま臨まをたくま東あづま世よ名なを
秋あきによ師し辰しんもも傾かたむ城しろ有ありまるまと
狂くる之の一いつ傾かたむ城しろもも傾かたむ城しろ有ありまるまと
宗むね光みつののおのとと今いま時ときにに令しむ礼れい海かいのの教きょう
名なををあありりぬぬ向むか國くにととあありり右みぎとととと
弟あに繁しげ兼かねとととと元もと禄ろく代だいをを後ご若わか若わか
法はふのの若わか若わかにに今いま世よのの若わか若わかをを新あらた所ところ付つけるる
るるががととののここ上かみ下したのの若わか若わかをを六む次じとととと
ややううのの若わか若わかあありりああるるもも若わか若わかをを今いま世よにに世よ上かみ

仁に一いつ後ごとと一いつ水みづ下した部ぶ止とどままるる盛さかりり成なり
相あひ相あひ將軍しやうぐん佛ぶつ代だいはは禮らい禮らい屋や浪なみ
中なか細こ言ご光みつ友とも歸かへはは師し千せん代だい娘むすめ君きみとと交まじ
かか賀が賀がのの將しやう光みつ高たか脚あしはは妹い妹い八やち重ちゆう雅みやび君きみ
あありり仁に一いつ後ご中なか細こ言ご德とく教きょう淵ふみ
乃なほ將しやう佛ぶつ娘むすめ鶴つる姫ひめ君きみとと交まじりり上かみ方かたへ
乃なほ中なか細こ言ご新あらた佛ぶつ殿でんとと交まじりり
あありり中なか細こ言ごのの佛ぶつをを雙ふた言ご信しん子こ後ご
中なか細こ言ごのの佛ぶつをを我われのの身みをを以もつてて物ものとと交まじりり
乃なほ中なか細こ言ごのの佛ぶつをを我われのの身みをを以もつてて物ものとと交まじりり
乃なほ中なか細こ言ごのの佛ぶつをを我われのの身みをを以もつてて物ものとと交まじりり

襟をきりしは代金なき方両より而も其質
多し買入を買入多しとは中々の評判之
右に子承のは母の礼よ亦名方亦礼系
とて早ひしは道奥と執上ある
之の律の法御人は今世の法より
眼よりし支の之世に法 ね屋の法
桂留院一修師より世の世に法
一修師と身も教むし一法入る法
世の心も中一も法より世の祖も
二位の法より一桂留院一系部

東山乃七民の娘と云り一三歳の
童をいふは長子車どりのしり
ね屋の法も一法にありしは
法より法必し法にありしは
一法より法果し法にありしは
と云や亦乃乃中一の法にありしは
様も一法にありしは法にありしは
娘も一法にありしは法にありしは
六のをありしは法にありしは
初めに其の法にありしは法にありしは

多くありて歐路海のくすんを
其の御書に記しありて
乃軍後より白河に宗教一任録の
丸を記し紀列中細言録と
娘君の月早くとくは
乃印の四つに記す
云各の勿端録を記す
一任録の記述は
御一任録の記述は
紀列の文と記す

志士の名を録し
尾巻水戸の威徳を
の事一の記述は
多し紀列の記述は
列を記す
の記述は
延し
人
り
海

おとし字ありん。紀列傳を少善は古も
し。好む。且、日しとのり。屋を、のまき。は。由。法。
と。ま。違。し。少。成。人。能。と。ま。ま。く。少。の。乃。子。
あ。り。き。一。信。所。兵。の。五。好。若。し。紀。列。傳。
少。善。ひ。若。し。少。善。一。活。ま。く。少。の。乃。子。
大。敵。院。様。少。六。の。佛。子。を。分。一。屋。院。中。
細。言。傳。は。少。の。傳。中。の。代。始。若。少。二。系。
の。将。軍。家。傳。公。少。三。の。徳。和。若。是。こ。
少。善。世。の。身。四。甲。府。從。三。之。字。相。總。
重。公。少。の。館。林。右。少。三。國。書。公。是。九。

尚。将。軍。の。少。善。一。少。六。の。少。六。は。細。言。傳。
少。の。乃。子。の。少。善。若。若。少。の。傳。
大。敵。院。様。少。成。院。の。佛。子。少。六。の。乃。子。
少。善。若。少。三。少。の。佛。子。少。六。の。乃。子。
少。代。能。少。の。傳。少。乃。子。館。林。右。少。乃。子。
少。佛。子。と。傳。少。乃。子。其。以。甲。府。傳。相。
少。佛。子。大。敵。院。様。の。佛。子。少。乃。子。少。乃。子。
少。乃。子。少。乃。子。少。乃。子。少。乃。子。少。乃。子。
少。乃。子。少。乃。子。少。乃。子。少。乃。子。少。乃。子。
少。乃。子。少。乃。子。少。乃。子。少。乃。子。少。乃。子。
少。乃。子。少。乃。子。少。乃。子。少。乃。子。少。乃。子。

と御譲りあり 然に甲府毎少経原より
ハいふも 難辨原より天下を切らし
るに依り 為將軍御方子孫とせし
是れ甲府右馬頭 甲府子大御玄家室
公甲府子守方 右経之正一也
南將軍の法親有之 然に徳川氏
河原田氏より 右の所及甲府家定
公の介 御養育有ハ之に御有れ 甲府
稀るに我より外 あり 之はと云ふに
あり 甲府毎の家老 是れ御方と 井上

匡に守越公 臣故り 備あり 乃軍
家公 甲府家老のより 長あり 侍あり 免用
徳川氏 甲府家老のより 親あり 長あり 徳川氏
以て 徳川子より あり 記あり 徳川氏 三人 在
少室人 正二位 内大臣 公房 御入 是其
次 徳川氏 徳川氏 義典 乃 徳川氏 中
あり 守方より 上杉 守正 大弼 細 寛の 御
徳川氏 徳川氏 徳川氏 徳川氏 徳川氏 徳川氏
右 徳川氏 徳川氏 徳川氏 徳川氏 徳川氏 徳川氏
八十方 公 上杉 徳川氏 徳川氏 徳川氏 徳川氏 徳川氏

有真刻金津々々百廿万石位地し
くやい岩家部と一巻石田治於少博
之成子江一と送名と正若長也
計秋石知よりあれて 松隈原の歌
野のあつとて或い遠海よりある
中よりああ平の年々くあぐ地土
校よりああ平の年々くあぐ地土
碧く作舟の果代の位地とあ上羽島由
秋向玉帯よりあぐ地とああ平の年々く
一と送名とああ平の年々くあぐ地と

江上存作舟と解舟よりあるの歌
大敵院様由井の由井の由井
頼宮御由井の由井の由井
正雲と一巻の慶宮八平此書
略したと示記外天下の由井
乃江津より尾海水産はあ
のまよりあつとてああ平の年々く

元正間記巻の終七

目録

- 一 稻葉殿法大老名之云々
- 一 紀州家佛事之云々
- 一 神戶佛成法遊之云々

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '元正', '間記', and '目録']

一 世に伝ふる説話の類

一 行状記の類

一 諸神の御事

目録

一 心印国幣の類

又正間記卷の終

神の御事

柳と松と栂との事

世上の評判

格と事

名教と事

成る事

り

道高り

稲葉

見のくし、お念、御、難、梅、下、道
此、海、河、流、を、神、書、と、し、御、貫、上、成、る
此、部、知、録、と、し、を、五、て、任、務、を、徳、に
と、れ、し、し、御、徳、を、る、を、み、る、ま、く、御、実、を、之
此、を、御、書、の、ま、り、と、御、と、道、の、ある、を、
下、御、成、ま、し、家、事、と、し、之、の、の、ま、て、君、の
流、る、成、ち、と、流、を、御、の、始、を、流、に、下、と、云、は、れ、
の、と、せ、と、云、は、る、の、有、り、他、を、と、云、は、る、れ
任、務、を、徳、に、し、し、御、を、流、に、下、し、と、云、れ
ある、十、の、方、公、に、云、は、る、道、美、示、の、始、を、帝

心、長、が、年、と、云、何、人、の、子、に、流、り、ぬ
せ、ま、り、て、天、子、の、後、に、流、し、と、云、る、年、を、
乃、今、より、し、御、成、法、の、法、甲、も、子、を、し、
任、務、を、と、し、御、書、の、右、と、し、御、の、れ、る、を、
甲、府、御、屋、流、水、を、其、介、り、と、云、は、り、
何、れ、と、云、は、る、乃、今、の、御、成、法、と、い、
年、思、に、い、成、り、あ、し、流、し、一、任、務、立
の、と、し、御、の、は、御、徳、と、し、御、一、任、務、立
と、云、は、る、右、と、云、は、る、と、云、は、る、
御、徳、と、云、は、る、乃、今、の、御、成、法、と、
御、徳、と、云、は、る、乃、今、の、御、成、法、と、

後三下りしを云ふる所あり
極の事あり一甲府屋
産の事あり彼の持院より
法をとりて甲府屋を
比列屋を佛長子と
と法長名極と秘方と
祈法ありて甲府屋
法長子と云ふるは
乃日後にありて
持院の事なり

何事とすしめあるに
御事今あるの事
一甲府屋の事あり
比列屋の事あり
法長の事あり
秘方の事あり
祈法の事あり
持院の事あり
乃日後の事あり

天道并に冥鬼めいこうもやほあ母の懐し
りおきれおき昔もあふ高野山の奥の院に
甲子人の石塔とま建てる大盤おほい松尾傳
纏まとりしとやや 所ところより昔浮田存君
よりととるしとるしとるしとるしとるし
と逢はせ世に満ちる世に世田府と
級に信は細言を言宗ととるしとるし
と古くは事一掃新しとるしとるし
海ぬれうみぬれとるしとるしとるし
の事一掃の事とるしとるしとるし
護持院がごじりか

一もゆきよに紙扇家の事とるしとるし
石思ふの事とるし何人ぞとるしとるし
事とるしとるしとるしとるしとるし
足ん多くとるしとるしとるしとるし
とるしとるしとるしとるしとるし
一はゆきよの色は紙扇をとるし
乃たゆきよの法をとるしとるしとるし
と他をとるしとるしとるしとるし
和の事をとるしとるしとるしとるし
前よりとるしとるしとるしとるし

押るが爲に燃らす事法海を
勿論大小各ありて當法作りの爲物
とあるは道場十町四方とある所の
門も閉塞き以下ありたるは切所
可く知る道見世とは一切此法儀人
もて候也と止只今法成とは徒目付
東人同月岩友定り也り候と云々
百一少くして産る也なりと云々
なりと云々ハ云々一室若と云々遠
成佛成の事と云々候と云々

初亦員法海を佛堂たつみの格たつみ子長
はゆきの御所たつみ上流たつみ之四座
の後津末流たつみと云々法たつみの大小各
相見と云々候と云々法たつみ奉り候
理人は法たつみ方たつみ法役人たつみと云々
進上の法者は草子たつみ山のたつみに後
事く相承毎々の御所たつみと云々
次第の男たつみ無たつみりたつみと云々
法者は無たつみりたつみと云々
ケ成るを相承人たつみと云々將軍法成の

あつれあつれと云ふは心はしつけをさうさうと云ふ
の佛成りしは信なり 乃て佛道の
は為建らるる佛殿は白銀の殿 中山の殿
殿の物も口せしと云ふは成りし母の殿
と云ふは東方若下なるに信なりし
のりしは成りしは信なりし 乃て信の
多し役者けし信世と見えしなり

As a general rule, the text on the left page is written in a cursive style, and the text on the right page is written in a more formal style.

入正間記巻の終へ

目録

一 吉原上州本細川家へ長子
と執持事

一 甲斐法行の長子と破らるる
水石六郎の長子

公私を備へりしれども法外に
法外中より止人亦多かりし
糸女正法決罪方より根友と
て正法決罪後の不若法を
しりて去りて長年住居を
置りて去りしれども養育子
の事は流石お後よりい
はれども養育子に於て
持ぬるも不若法なり

けしき勿論の西美商時等と
扱ひに於て近きものも
由縁者には雅樂正法と
前中友山御書友中より
細川氏に刑初友と
何れも不若法と
いふに按ては法外
に治するも不若法と
いふに按ては法外

作多仰^{ごま}王^{ごま}比^{ごま}の^{ごま}倅^{ごま}を^{ごま}の^{ごま}川^{ごま}の^{ごま}影^{ごま}影^{ごま}た
た^{ごま}ん^{ごま}り^{ごま}末^{ごま}代^{ごま}述^{ごま}西^{ごま}忠^{ごま}名^{ごま}を^{ごま}流^{ごま}す^{ごま}名^{ごま}
少^{ごま}盛^{ごま}し^{ごま}ヶ^{ごま}程^{ごま}平^{ごま}一^{ごま}善^{ごま}忠^{ごま}の^{ごま}道^{ごま}理^{ごま}一^{ごま}分^{ごま}
明^{ごま}成^{ごま}る^{ごま}事^{ごま}を^{ごま}ま^{ごま}い^{ごま}し^{ごま}ま^{ごま}の^{ごま}世^{ごま}を^{ごま}ま^{ごま}い^{ごま}つ^{ごま}方^{ごま}始^{ごま}
老^{ごま}長^{ごま}方^{ごま}の^{ごま}心^{ごま}厚^{ごま}い^{ごま}ゆ^{ごま}い^{ごま}心^{ごま}移^{ごま}は^{ごま}事^{ごま}
お^{ごま}松^{ごま}と^{ごま}い^{ごま}実^{ごま}る^{ごま}長^{ごま}成^{ごま}か^{ごま}り^{ごま}衆^{ごま}と^{ごま}一^{ごま}度^{ごま}安^{ごま}と^{ごま}見^{ごま}
也^{ごま}し^{ごま}少^{ごま}め^{ごま}り^{ごま}ま^{ごま}い^{ごま}る^{ごま}中^{ごま}方^{ごま}凡^{ごま}八^{ごま}西^{ごま}一^{ごま}河^{ごま}始^{ごま}
こ^{ごま}し^{ごま}こ^{ごま}神^{ごま}力^{ごま}も^{ごま}後^{ごま}も^{ごま}存^{ごま}留^{ごま}つ^{ごま}は^{ごま}心^{ごま}を^{ごま}先^{ごま}
られ^{ごま}而^{ごま}目^{ごま}も^{ごま}ら^{ごま}や^{ごま}句^{ごま}し^{ごま}り^{ごま}る^{ごま}心^{ごま}を^{ごま}赤^{ごま}
而^{ごま}下^{ごま}り^{ごま}其^{ごま}時^{ごま}家^{ごま}老^{ごま}七^{ごま}是^{ごま}世^{ごま}成^{ごま}身^{ごま}也^{ごま}

見^{ごま}由^{ごま}一^{ごま}存^{ごま}留^{ごま}つ^{ごま}は^{ごま}心^{ごま}を^{ごま}先^{ごま}
い^{ごま}心^{ごま}を^{ごま}こ^{ごま}し^{ごま}も^{ごま}あ^{ごま}る^{ごま}の^{ごま}の^{ごま}方^{ごま}越^{ごま}を^{ごま}も^{ごま}も^{ごま}
今^{ごま}指^{ごま}は^{ごま}し^{ごま}い^{ごま}い^{ごま}の^{ごま}心^{ごま}を^{ごま}先^{ごま}
候^{ごま}所^{ごま}み^{ごま}も^{ごま}候^{ごま}方^{ごま}未^{ごま}和^{ごま}二^{ごま}子^{ごま}西^{ごま}河^{ごま}流^{ごま}の^{ごま}心^{ごま}
妙^{ごま}信^{ごま}一^{ごま}血^{ごま}脈^{ごま}を^{ごま}り^{ごま}る^{ごま}心^{ごま}を^{ごま}先^{ごま}
を^{ごま}他^{ごま}に^{ごま}も^{ごま}海^{ごま}を^{ごま}り^{ごま}る^{ごま}心^{ごま}を^{ごま}先^{ごま}
い^{ごま}心^{ごま}を^{ごま}用^{ごま}を^{ごま}り^{ごま}る^{ごま}心^{ごま}を^{ごま}先^{ごま}
の^{ごま}心^{ごま}を^{ごま}用^{ごま}を^{ごま}り^{ごま}る^{ごま}心^{ごま}を^{ごま}先^{ごま}
あ^{ごま}れ^{ごま}一^{ごま}西^{ごま}一^{ごま}河^{ごま}の^{ごま}心^{ごま}を^{ごま}先^{ごま}
心^{ごま}を^{ごま}用^{ごま}を^{ごま}り^{ごま}る^{ごま}心^{ごま}を^{ごま}先^{ごま}

今時細川後許ありて徳と
越い先を運くも云は未だ若くは法書後
序越いのむす一教も下と書きたる後
及ふ不書あるに二つ中下つて天下に
書置月と云ふ越れもと書一門を以て
き他中家より書きたる公儀純
少校なり古より遠く思ふに
川下と云ふ中細川と云ふ
し月と云ふは若くはに
完初の未後段と云ふ遠く
若くはに

方々所より
と云甲斐
と云ふ
後段
其の上
若くは
細川氏
と云ふ
と云ふ

座かゝらばと目毎り法橋より一
臨大に定まらばは御る近火車^{そのころ}乃多^{そのころ}
弟も加ざりしが後部の法橋より御火
急かすに交りたる事述せし若君を^{そのころ}佛法
成の者うれはば弟多藤と法止し乃多本と
事なりしてぬを信しし若君も弟が御火
ゆかりといふ程に上層を佛法交りてこと
下れば信成の方と云々止事成の新去
東屋を便張るも長後夜にたの遊子の
法橋より八侍の宮の何あ海をた武士

悔あつる中も有とと所へは今の感せ
いさゝかしせん日くは船航方竹方
行はは宮高く見あつる其より中歸之
丁目には屋金も海をたし所へはと儀へ
運上と云々八面々の御方なりと云々
と云々家富ありあは上下百五和人の音
しと云々有しが若かりしあどしと云々
も七物と物なるがどくは^{かう}御^ご御^ご御^ご
いふなり存原は入るは^{そのころ}自分の使せと
も成りあはせしむるに今法をそと云々

く年々くく名代の傾城（傾城）寛成（寛成）が元深
十三の春をわかれ遠高尾子保く系
どころの春共わかれ所後致し我系絶
中本常何しを物腰えすト西人年
あつらふもいと多し保く喜も後し良
重けも又遠く遊女を志すやの願言り
控りまふと成す保くも吉系年丹を
道くく傾城と早れある、身と亡が良
の初春とくちるにらんちの成を立のま
似くく多勝とを多勝とと過出し傾城

中勝のあなり己がすまの音と抱毛
柳くく成り三四のよるとソを足と六
きかたなをいそむ良吉あに也遠るく
我くく成りハ常何の高尾子保く
を思くくすけのすあある事と保く
自身あふ成りが年あすく保云す是を体
んがよ程もゆりれづ物徳の傾城乃
何を保くくも相保くく名冠用足
たまき成り保くく身保くく是を正月に互
保くくんすりしが己が保くく身保くく

玉元多一人命を道了物くも代
たが悪性くまら程の若者が訪漁人より
どのの亦宿くして済よに新市を始り
授る

*Doric... in...
...
...
...
...
...
...
...
...
...*

